

独断

注目商品

REVIEW

高速作業で効率を高める



スピード&シンプル農法

53 キャリアシリーズ

■希望小売価格：CR300W 2,520,000 / CR420 5,145,000円 / CR500 5,565,000円 (税込)

■スガノ農機株式会社

〒300-0405 茨城県稲敷郡美浦村大字間野字天神台300

☎029-886-0385 <http://www.sugano-net.co.jp>

大面積の能率を上げるために、あるいは、適期作業のために高速で作業がしたい。これは経営者なら誰もが欲求することである。ここにその欲求を満たしてくれる作業機がある。

収穫残渣や切り株の表層混和と碎土・整地・鎮圧の2通りの使い方ができるスガノ農機(株)の「キャリア」だ。

主にプラウの耕起前と耕起後に使用するが、デントコーン跡の作業では、そのまま麦播種ができる播種床まで仕上げてしまうのである。しかも、魅力なのはトラクタの車速が9〜15kmで作業できることであり、作

業幅は3m・4・2m・5mの3型式がある(下表参照)。

CR300Wはディスクのみだが、CR420と500はフロントツールの交換で2通りの使い方ができる。ディスクを装着すると、表層のワラなどを土と混和し有機物の腐植促進に効果を発揮し、アグリラティン(チゼル)に交換すると、プラウ耕起後の碎土・整地・鎮圧に能力を発揮する。交換は硬く平らな場所を利用して、キャスタースタンドにより、アグリラティンからディスクに素早く交換が可能だ。

ディスクは、2列のφ430mmディスクが土壌を切り裂き、ワラなど

の残渣物や雑草を3〜10cmの深さで土と混和し有機物の腐植促進に効果を発揮する。また、耕深は作業中でもトラクタの運転席から、油圧で調整することができる。最適な混和のためには、トラクタを9〜15km/hの高速で作業することが必要で、これにより作業効率がよく、経済的だ。すべてのディスクアームはゴム製のサスペンションが取り付けられており、これによりショックを緩和し、高速においても安定性を確保する。

アグリラティンに交換すればキャリアは碎土・整地・鎮圧の作業機に変わる。破砕力のあるタインの歯が土を砕き、クロスボードが土を整地・鎮圧する。また、後方のリングは自重により土塊を砕き、より碎土・鎮圧を可能にする。

ローラはより重いほうが効果的であることは、レキサスツインで



移動に便利な折畳みシステムは、1分間で作業モードから移動モードへ切換えることができる。移動時の作業機幅は2.5m。

既に証明されているが、レキサスツインでは過剰すぎる場合において、キャリアは最適である。タイプにもよるが、機械全体に約900kg/mという重量があり、土塊の碎土・鎮圧が発揮できる。

CR420と500は、作業幅があるため、道路走行時には、折り畳みシステムの移動モードへと切替える必要がある。その際の作業機幅はわずか2.5mと、とてもコンパクトである。

装着はCR420と500はけん引だが、CR300Wは3点直装であるため、トラクタのロアリンク揚力が最低3500kg必要であることが条件となる。

(はなぶさはじめ)

キャリア 主な仕様

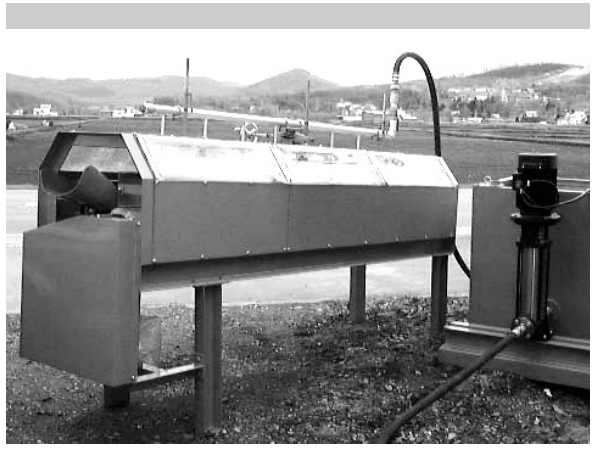
モデル	トラクタ 適応馬力 (ps)	装着装置	作業幅 (cm)	総重量 (kg)	外部油圧 取だし	小売希望価格 円 (税込) *3)
CR300W	95~120 *2)	3点直装	300	2450 *1)	1系統	2,520,000 *2)
CR420	95~120 *2)	ドローバ (けん引)	420	3750 *2)	2系統	5,145,000 *2)
CR500	120~150 *2)	ドローバ (けん引)	500	5800 *2)	2系統	5,565,000 *2)

*1) : ウェイト800kg含む。

*2) : ディスクタイプです。

*3) : 価格の有効期間は2006年6月31日まで。

水槽不要。 縦送り方式のノズル洗浄



葉付・葉切大根専用洗浄機

HFURCシリーズ

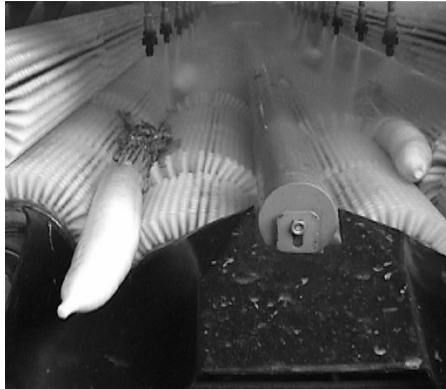
■希望小売価格
 小規模向け：1,600,000円～、中規模向け：2,300,000円～、
 大規模向け：4,200,000円～（オプションは別途）
 ■株式会社エフ・イー
 〒078-8273 北海道旭川市工業団地3条2-2-27
 ☎0166-36-4501 <http://www.fesystem.co.jp/>

ダイコンは、調製作業で根元を残して葉を切断処理するのが一般的だが、その葉については古来からみそ汁の具材をはじめとしてさまざまな調理され、そして食されてきた。近年では、ビタミンCやカロチンといった栄養素が多分に含まれていることで注目されるようになってきている。市場でもこうした葉付ダイコンへのニーズがあり、葉切ダイコンよりも高値で取引されていると聞く。とはいえ、生産者や供給者からすれば葉付ダイコンの洗浄は手間のかかる作業で、機械化も困難な領域とされていた。そこに割って入ったのが今回、こ

紹介するエフ・イー（北海道旭川市）のダイコン洗浄機である。ダイコンに限らず、根菜類の洗浄機といえば、機体の上下に板ブラシとロールブラシを配したブラシ式が主流だったが、同社の商品は高圧ノズルによる噴射をベースにロールブラシを組み合わせた機構となっている。従来の方式では、「こすって落とす」を基本コンセプトにしているため、水槽に浸して表面に付着した泥を落とすやすくしてから洗浄機にかけなければならなかったが、これにはいろいろと問題があった。たとえば、ダイコンが水分を吸収



ダイコンは先端を前にして縦にした状態で投入する



ダイコンの葉が傷むことなく、きれいにまともになりながら排出されようとしているのが分かる

してしまふことでの軟化や酸化、さらには水槽に張る大量の水の使用やその設置場所、排水の処理といったことだ。一方同社の洗浄機は、基本的に水槽を必要としないだけでなく、水の使用を極力抑えた「ノズル洗浄」という新たな概念を生み出した。ここでその詳細に触れよう。構造は、毛足の長いリング状ブラシが数十cmおきに付いた耐摩耗性細毛ブラシ（ロールブラシ）が段差をつけて縦に配列され、ダイコンが運ばれるブラシとブラシのちようど真上に高圧扇形状特殊ノズルが取り付けられた格好となっている。先端を前にして縦にした状態で投入されるダイコンは、2本のブラシの上を横回転しながら前方へ

と送られ、リングの部分で先端やくぼみなどの汚れを浮かしながらノズルによる高圧噴射（20 kgf/cm²）で洗浄されていく。このノズルによって水の拡散が抑えられるため、少ない水量で効率的な洗浄が可能となっている。ダイコンの葉については、回転が加えられることによってまったり、タオルを絞ったような状態で排出される。ブラシの回転速度とノズルの高さは随時調整できるほか、葉付ダイコンだけでなく、葉切ダイコンにも適用することができる。作業能率は、小規模向けで葉付ダイコンが1時間当たり400～600本、葉切ダイコンが800～1200本となっている。（永井佳史）